

# **Systemwalker Centric Manager**

## **V12.0L10/12.1**



**全体監視サーバ クラスタ適用ガイド**

**J2X1-2580-01Z2(00)**

---

# まえがき

## 本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Manager 12.1、およびSystemwalker Centric Manager V12.0L10を使用したクラスタシステム上での全体監視運用の機能概要について説明しています。

なお、本書は、Solaris/Linux/Windows版を対象としています。

## 本書の読者

本書は、Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行う方を対象としています。本書により、クラスタシステム上での全体監視運用の概要を理解することができます。

本書をお読みになる場合、“Systemwalker Centric Manager 解説書”をお読みになり、Systemwalker Centric Managerの概要を理解しておくことが必要です。

## 本書の構成

本書は、1章～5章から構成されています。

### 第1章 概要

Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用の概要について説明します。

### 第2章 環境

Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行う場合の環境について説明します。

### 第3章 導入

Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行うための環境構築について説明します。

### 第4章 運用

Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行う場合の運用方法について説明します。

### 第5章 運用環境の変更

Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用の運用環境の変更について説明します。

---

## 本書の読み方

### コマンドで使用する記号について

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

#### 記述例

[ PARA= { a   b   c   … } ]
-----------------------------

#### 記号の意味

記号	意味
[ ]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
—	省略可能記号 “[ ] ” 内の項目をすべて省略したときの省略値が、下線で示された項目であることを示します。
	この記号を区切りとして並べられた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。
…	この記号の直前の項目を繰り返して指定できることを示します。

### マニュアルの記号について

マニュアルでは以下の記号を使用しています。



特に注意が必要な事項を説明しています。

### 注意事項

本書では、Systemwalker Centric Managerのエディションで、Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、およびGlobal Enterprise Editionを“GEE”と省略していますので、各エディションをお読み替えてください。

### 略語表記について

- Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition、Microsoft® Windows Server™ 2003, Datacenter Edition および Microsoft® Windows Server™ 2003, Web Edition を “Windows Server 2003” と略しています。
- Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system、Microsoft® Windows® 2000 Server operating system および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system を “Windows 2000” と略しています。
- Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 4.0、Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 を “Windows NT” と略しています。
- Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 98 Second Edition を “Windows 98” と略しています。

- 
- Microsoft® Windows® Millennium Editionを“Windows Me”と略しています。
  - Microsoft® Windows® XP ProfessionalおよびMicrosoft® Windows® XP Home Editionを“Windows XP”と略しています。
  - Windows NT®, Windows® 2000およびWindows Server 2003上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Windows版 Systemwalker Centric Manager”または“Windows版”と略しています。
  - Solaris™ オペレーティングシステムを“Solaris”と略しています。
  - Solaris上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris版 Systemwalker Centric Manager”または“Solaris版”と略しています。
  - Solaris、HP-UX、AIX、Linux上で動作するSystemwalker Centric Managerを、“UNIX版 Systemwalker Centric Manager”または“UNIX版”と略しています。
  - HP-UX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“HP-UX版 Systemwalker Centric Manager”または“HP-UX版”と略しています。
  - AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“AIX版Systemwalker Centric Manager”または“AIX版”と略しています。
  - Linux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版 Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と略しています。

## 輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

平成17年 8月

平成17年 8月 初版

## 商標について

APC、APCロゴ、PowerChute、Smart-UPS その他のAPC製品名は、American Power Conversion Corpの商標および登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UXは、米国Hewlett-Packard社の登録商標です。

MC/ServiceGuardは、Hewlett-Packard Companyの製品であり、著作権で保護されています。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NT、Visual Basic、Windows Server、ActiveSyncは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、Oracle8i、Oracle9iは、米国オラクルの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat、

---

Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Sun/Solaris/Java に関連するすべての商標およびロゴマークは、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus は、Symantec Corporation の米国における登録商標です。

Tcl/Tk は、カリフォルニア大学、サン・マイクロシステムズ社、Scriptics 社他が作成したフリーソフトです。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国および他の国における登録商標です。

VirusScan および NetShield は、米国 Network Associates 社および関連会社の商標または登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Portions Copyright © Contributors to ISODE Project

Portions Copyright © 1983-1994 Novell, Inc. All Rights Reserved.

JavaChart™ Copyright © 1996-1997 Visual Engineering, Inc. All Rights Reserved

HashJava GNU Library General Public License

All Rights Reserved, Copyright © 株式会社PFU 1995-2005

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 1995-2005

Portions © 1994-1996 Attachmate Corporation. All Rights Reserved.

---

# 目次

第1章 概要 .....	1
1.1 目的 .....	2
第2章 環境 .....	3
2.1 システム構成 .....	4
第3章 導入 .....	9
3.1 クラスタシステムに全体監視サーバを構築する .....	10
3.2 クラスタシステムの運用管理サーバを全体監視サーバの監視対象とする .....	12
3.2.1 運用管理サーバの設定 .....	12
3.2.2 全体監視サーバの設定 .....	13
第4章 運用 .....	15
4.1 運用モデル .....	16
第5章 運用環境の変更 .....	19
5.1 クラスタシステムの全体監視サーバを解除する .....	20
5.2 クラスタシステムの監視対象運用管理サーバを全体監視運用から除外する .....	21
5.2.1 運用管理サーバの設定 .....	21
5.2.2 全体監視サーバの設定 .....	22

---

# 第1章 概要

本章では、Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用の概要について説明します。

## 1.1 目的

クラスタシステム上での全体監視運用は、クラスタシステムを利用し、Systemwalker Centric Managerの全体監視サーバを高信頼化することで、以下のことが実現でき、全体監視作業の信頼性を向上させることができます。

- 全体監視機能の引継ぎ  
全体監視サーバのノードダウン時に、全体監視機能を引き継ぎます。  
被管理対象の業務サーバやクライアント側は、全体監視サーバのノードダウン時にも、接続先の設定などを変更する必要はありません。



---

## 第2章 環境

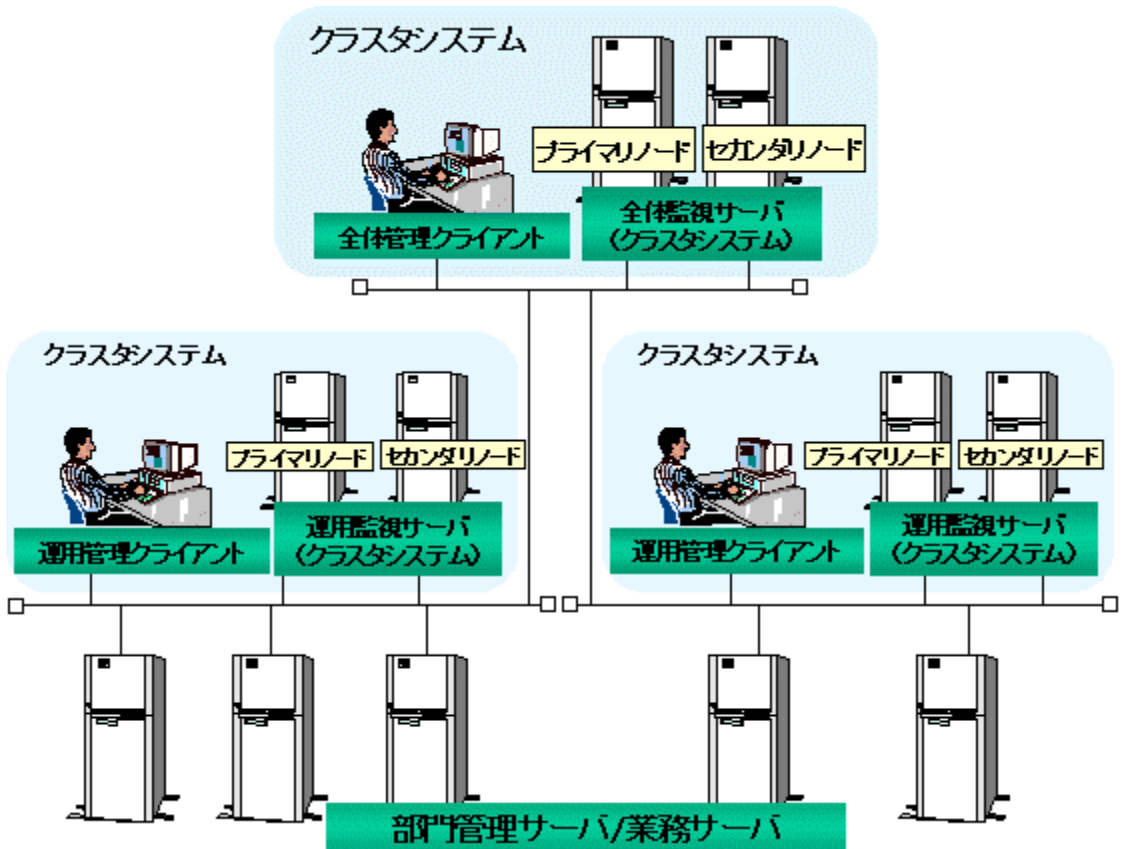
本章では、Systemwalker Centric Managerの全体監視運用をクラスタシステム化して行う場合の環境について説明します。

## 2.1 システム構成

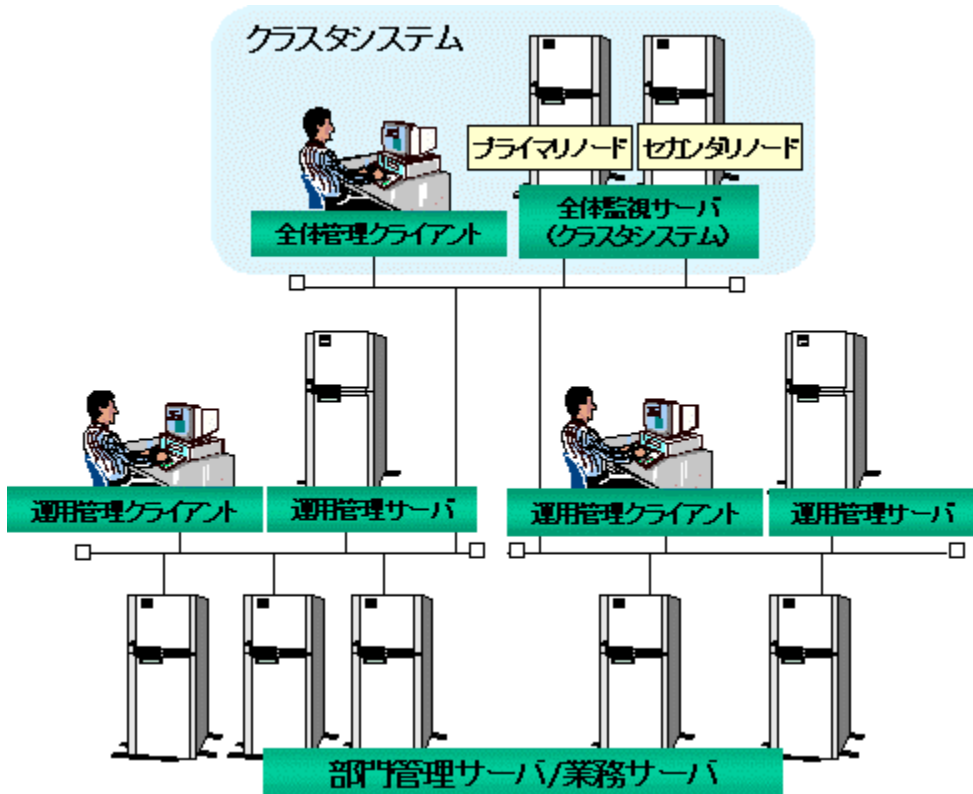
全体監視運用をクラスタシステム化して行うためのシステム構成図を以下に示します。

全体監視運用のクラスタシステム化では、全体監視サーバをクラスタシステムとして運用する場合と、全体監視サーバ、および運用管理サーバをクラスタシステムの両方をクラスタシステムとして運用する場合の方法があります。

### 全体監視サーバおよび運用管理サーバがクラスタシステムの場合



## 全体監視サーバがクラスタシステムの場合



## ソフトウェア条件

インストール種別に応じて、それぞれ必要なソフトウェアをインストールしてください。

### 全体監視サーバ (クラスタシステム)

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア (別購入ソフトウェア)	—
Solaris	Systemwalker Centric Manager EE/GEE 12.1	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア (別購入ソフトウェア)	—
Linux	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア (別購入ソフトウェア)	—

### 全体監視クライアント (クラスタシステム)

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理クライアント
Solaris	Systemwalker Centric Manager EE/GEE 12.1	
Linux	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	

**運用管理サーバ（クラスタシステムの場合）**

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア（別購入ソフトウェア）	—
Solaris	Systemwalker Centric Manager EE/GEE 12.1	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア（別購入ソフトウェア）	—
Linux	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理サーバ
	クラスタソフトウェア（別購入ソフトウェア）	—

**運用管理サーバ（通常の場合）**

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	運用管理サーバ
Solaris	Systemwalker Centric Manager SE/EE/GEE 12.1	
Linux	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	

**運用管理クライアント**

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	運用管理クライアント
Solaris	Systemwalker Centric Manager EE/GEE 12.1	
Linux	Systemwalker Centric Manager EE V12.0L10	

**部門管理サーバ**

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	部門管理サーバ
Solaris	Systemwalker Centric Manager SE/EE 12.1	
Linux	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	

**業務サーバ**

OS	ソフトウェア条件	インストール種別
Windows	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	業務サーバ
Solaris	Systemwalker Centric Manager SE/EE 12.1	
Linux	Systemwalker Centric Manager SE/EE V12.0L10	



**注意**

- クラスタシステム上に構築するプライマリノード、およびセカンダリノードは、同じ環境で構築します。バージョンレベル、およびOSが異なるものでは構築できません。
- 配下になるサーバ（部門管理サーバ/業務サーバ）、およびクライアントは、運用管理サーバと同じバージョンレベルか、それ以下のバージョンレベルで、構成してください。運用管理サーバより下のバージョンレベルで構成した場合は、機能制限（バージョンレベルに合わせて）があります。

### **運用形態**

Systemwalker Centric Manager 全体監視サーバ、および運用管理サーバでは、1:1の運用待機の運用形態をサポートします。運用形態については、それぞれのクラスタソフトウェアのマニュアルを参照してください。



---

## 第3章 導入

本章では、Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行うための環境構築について説明します。

## 3.1 クラスタシステムに全体監視サーバを構築する

クラスタシステム上で全体監視サーバを作成する場合の設定手順を以下に示します。

1. 監視対象となる運用管理サーバを設定します。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。

2. 運用管理サーバをクラスタシステム上に導入します。

詳細については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。

また、導入の際には以下のことに注意してください。

- データベース領域は、監視対象となる運用管理サーバが管理するノード数の合計で見積ってください。
  - 監視対象となる運用管理サーバのホスト名を名前解決できるように、hostsまたはDNSの設定を行ってください。
3. プライマリノードで全体監視サーバを作成します。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。ただし、以下の設定はここでは不要となります。

- データベース領域の見積もり
- hosts、またはDNSの設定
- インストールと環境構築
- Systemwalker Centric Managerの再起動
- 構成情報の移入

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。ただし、以下の設定はここでは不要となります。

- Systemwalker Centric Managerの再起動
  - 構成情報の移入
4. セカンダリノードでMpFwSetOvalコマンドを実行し、運用管理サーバを全体監視サーバに変更します。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”



を参照してください。

5. Systemwalker Centric Managerを再起動します。再起動の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。
6. 全体監視サーバに構成情報を移入します。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。

## 3.2 クラスタシステムの運用管理サーバを全体監視サーバの監視対象とする

クラスタシステム上の運用管理サーバを、全体監視サーバの監視対象とする場合に、運用管理サーバおよび全体監視サーバで行う設定について説明します。

### 3.2.1 運用管理サーバの設定

以下の設定は、クラスタシステム上で運用管理サーバが運用されている状態で行ってください。

1. 専用線型の場合は、待機系でhosts、またはDNSの設定を行います。
2. 待機系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、全体監視サーバを定義します。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。

3. 運用系で、全体監視サーバの監視対象となる運用管理サーバの環境設定を行います。すでに環境構築済みの場合、インストールと環境構築は不要です。

**[専用線型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

**[インターネット型の場合]**

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。

また、運用管理サーバがクラスタシステムでない場合は、運用管理サーバが運用されている状態で、2. から行ってください。

## 3.2.2 全体監視サーバの設定

運用系で、全体監視サーバの環境設定を行います。

### [専用線型の場合]

“Systemwalker Centric Manager 全体監視適用ガイド”を参照してください。

### [インターネット型の場合]

“Systemwalker Centric Manager インターネット適用ガイド BtoB編”を参照してください。

また、Systemwalker Centric Manager の再起動の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。



運用管理サーバを、全体監視サーバに登録する場合に実行する以下のコマンドは、被監視運用管理サーバのホスト名に、クラスタシステムの設定コマンドで指定されたホスト名を指定する必要があります。クラスタシステムの設定コマンドについては“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。

### [Windows版の場合]

```
MpFwSetOval -f add -h 被監視運用管理サーバのホスト名
```

### [Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/Systemwalker/bin/MpFwSetOval -f add -h 被監視運用管理サーバのホスト名
```



---

## 第4章 運用

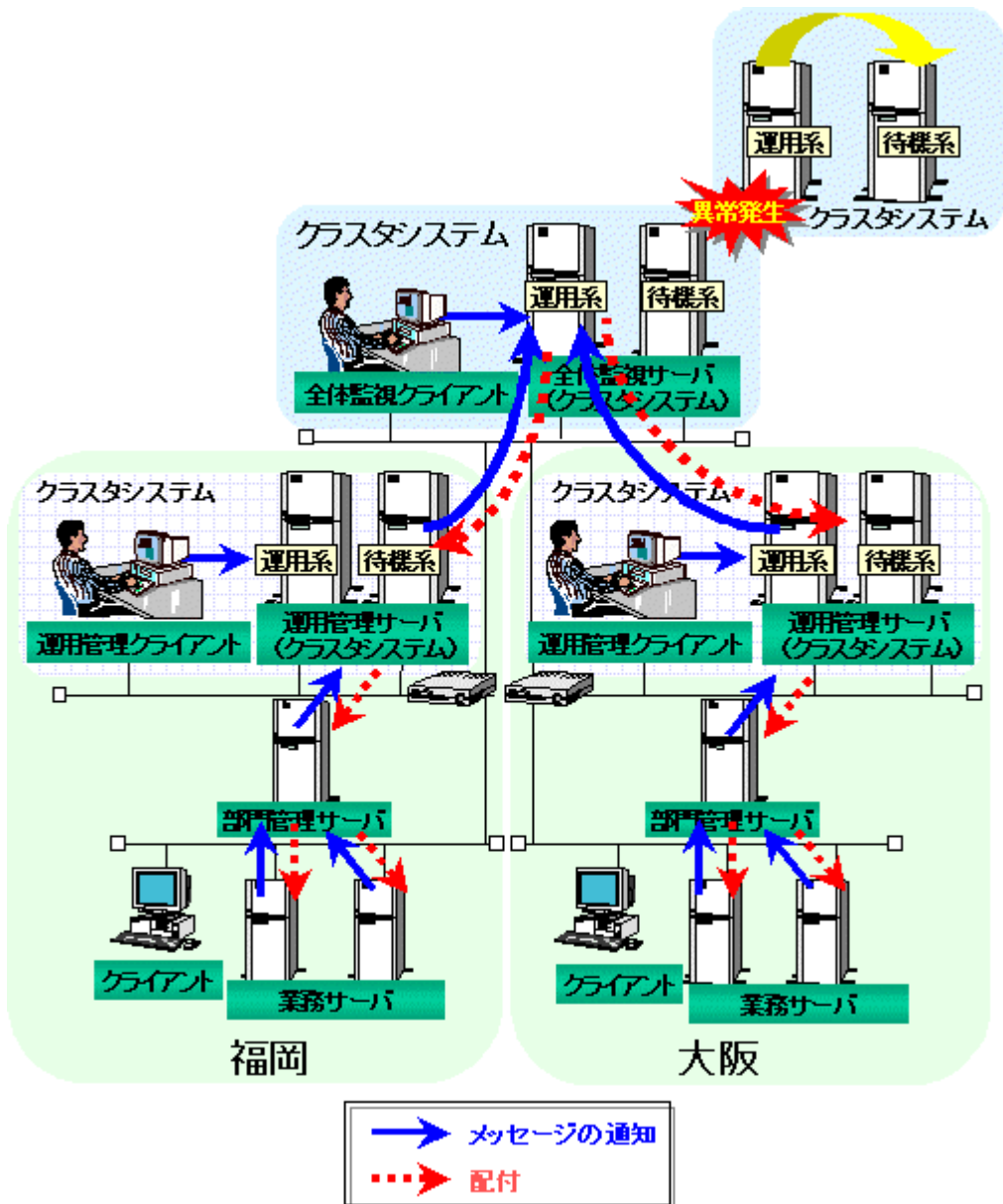
本章では、Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用を行う場合の運用方法について説明します。

## 4.1 運用モデル

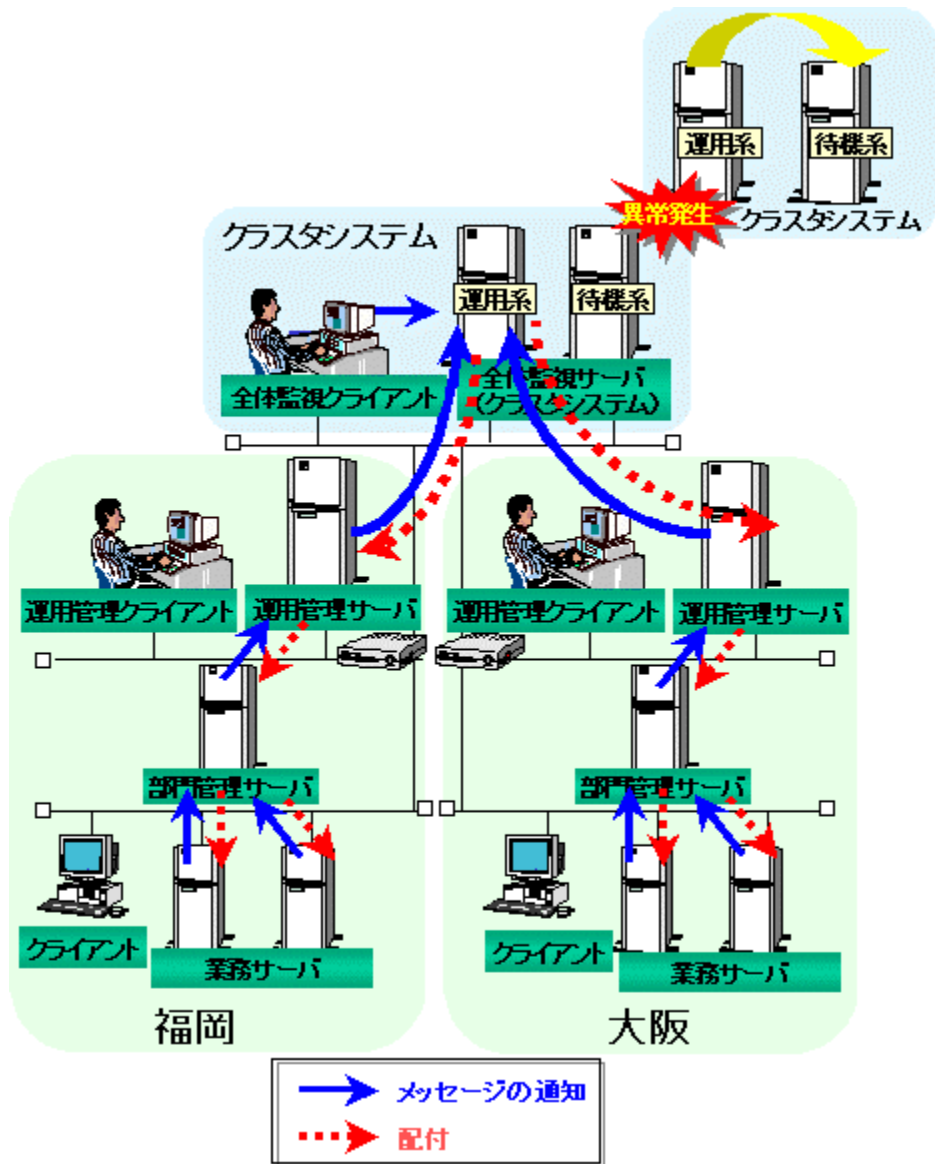
以下のシステム構成図を元に、クラスタシステム上での全体監視運用について説明します。

クラスタシステム上で全体監視運用を行うことで、全体監視機能の信頼性が高まります。運用系がノードダウンした場合は、待機系に切り替わり、全体監視機能を引き継ぎます。

## 全体監視サーバ、および運用管理サーバがクラスタシステムの場合



### 全体監視サーバがクラスタシステムの場合





---

## 第5章 運用環境の変更

本章では、Systemwalker Centric Managerを使用したクラスタシステム上での全体監視運用の運用環境の変更について説明します。

## 5.1 クラスタシステムの全体監視サーバを解除する

クラスタシステム上の全体監視サーバを解除する場合に、全体監視サーバで行う設定手順を以下に示します。

1. 待機系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、全体監視サーバを解除します。

**[Windows版の場合]**

```
MpFwSetOval -f rem -a
```

**[Solaris版、Linux版の場合]**

```
/opt/Systemwalker/bin/MpFwSetOval -f rem -a
```

2. 運用系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、全体監視サーバを解除します。

**[Windows版の場合]**

```
MpFwSetOval -f rem -a
```

**[Solaris版、Linux版の場合]**

```
/opt/Systemwalker/bin/MpFwSetOval -f rem -a
```

3. Systemwalker Centric Managerを再起動します。再起動の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。
4. クラスタ運用を解除します。解除の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。

## 5.2 クラスタシステムの監視対象運用管理サーバを全体監視運用から除外する

全体監視サーバの監視対象となっているクラスタシステム上の運用管理サーバを、全体監視運用から除外する場合に、運用管理サーバ、および全体監視サーバで行う設定について説明します。

### 5.2.1 運用管理サーバの設定

クラスタシステム上の運用管理サーバで以下の設定を行います。

1. 待機系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、全体監視サーバを解除します。

[Windows版の場合]

```
MpFwSetOval -f rem -a
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/Systemwalker/bin/MpFwSetOval -f rem -a
```

2. 運用系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、全体監視サーバを解除します。

[Windows版の場合]

```
MpFwSetOval -f rem -a
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/Systemwalker/bin/MpFwSetOval -f rem -a
```

3. 運用系で構成情報の変更を通知します。

[Windows版の場合]

```
opaconstat -d
```

[Solaris版、Linux版の場合]

```
/opt/Systemwalker/bin/opaconstat -d
```

4. Systemwalker Centric Managerを再起動します。再起動の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。

また、運用管理サーバがクラスタシステムでない場合は、解除する運用管理サーバで、2. から行ってください。

## 5.2.2 全体監視サーバの設定

全体監視サーバで以下の設定を行います。

1. 全体監視クライアントのSystemwalkerコンソールに表示されるノードから不要となるノードなどの構成情報を削除します。
2. 運用系でMpFwSetOvalコマンドを実行し、運用管理サーバを監視対象から除外します。

**[Windows版の場合]**

```
MpFwSetOval -f rem -h 被監視運用管理サーバのホスト名
```

**[Solaris版、Linux版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/MpFwSetOval -f rem -h 被監視運用管理サーバのホスト名
```

3. 運用系でSystemwalker Centric Managerを再起動します。再起動の方法については、“Systemwalker Centric Manager 運用管理サーバ クラスタ適用ガイド”を参照してください。